

# 令和7年度国際医療専門学校 自己点検自己評価全体まとめ

## 1. 目的

本校では、「自己点検・自己評価」を行うことで、教育理念の基に教育目的がどのように達成されているのか、また二科を有した医療系専門学校としての水準をどのように維持・向上させているのかを明らかにし、教育の質の維持・向上を図ることを目的としている。

## 2. 実施方法

評価項目は「学校経営」「教育課程・教育活動」「入学・卒業対策」「学生生活への支援」「管理運営・財政」「施設設備」「教職員の育成」「広報・地域活動」の8項目について、全教職員を対象に各自が自己点検自己評価したものを集計した。8項目の細目に関しては、令和5年度は、40項目であったものを令和6年度は55項目に増やし、より細分化し、更に教務部（看護学科、臨床検査学科）、事務部もほぼ同様の評価項目細目で評価できるように見直した。令和5年度の評価項目細目が令和6年度の細網に全て含まれ、令和5年度自己点検・自己評価と比較できることを学校管理運営会議にて確認している。さらに今年度は継続的評価を実施し、評価した。評価の尺度は、良い（5点）、やや良い（4点）、普通（3点）、やや不十分（2点）、不十分（1点）の5段階評定とした。

## 3. 令和7年度総括

令和7年度の自己点検・自己評価は、前年度と同様に8領域・55項目について全教職員が評価を行い、その結果を集計・分析した。今年度も評価項目の理解を深めるため、各部門に対して説明を行い、評価基準の共有を図った。その結果、教職員一人ひとりが学校運営や教育活動をより細かく捉え、改善点を考えた評価ができたと推測する。

全体としては、「学校経営」「教育課程・教育活動」「学生生活への支援」「施設設備」の領域で高い評価が得られた。特に、組織運営の透明性や教職員間の共通認識の向上が顕著であり、職員会議や委員会活動の活発化、課題解決に向けた協働意識の高まりが評価向上につながった。一方で、人材育成や入学者確保や広報活動に関する項目は依然として課題が残り、学校の特色発信や地域との連携強化が求められる結果となった。しかし、保健学科の創設に伴い相互の効果を期待する。

学科別では、看護学科は1項目で昨年度を上回り、教育課程の改善やICT活用の推進が評価された。クラウド型実習支援システムの運用が安定し、実習記録作成の効率化や教員による状況把握が容易になったことは、学習環境の整備に大きく貢献した。一方で、授業評価の回答率低下や、改善内容を学生への周知不足が課題として挙げられる

臨床検査学科は7項目で昨年度を上回ったが、その他の項目はやや低下した。特に入学・卒業対策や広報・地域活動において低い評価となり、入学者数の確保が十分でなかったことが影響している。新カリキュラムの初年度卒業生を送り出し、総括的なカリキュラム評価を実施できた点は成果であるものの、学生募集に対する危機感は強く、改善策の検討が急務である。

しかしながら自己学校評価数値が全体的に4以上の数値を示している事は教職員個々が本校の教育に対し思いと努力を認め推進力になっていると期待したい。

国家試験の結果については、看護学科は91.4%となり全国平均を下回った。1年次から国試模擬テストの計画的な実施や外部講師による講義など、早期の対策を進めてきたものの、昨年度を上回る結果に至らなかった。学生数は大きな変化はないが、個別支援に十分な時間を確保しきれなかったことが課題として残った。今後は、個別指導の強化、学習支援システムの見直し、学習習慣形成の支援など、学習効率を高める体制整備が求められる。

臨床検査学科は91.2%で、合格率を維持した点は評価される。性格テストを用いて学習傾向を把握するなど、個々の特性に応じた支援を行ってきた。少人数であることを活かし、成績下位者には教員が粘り強く個別指導を行ってきたが、安定した合格率を維持するためには、引き続き学習状況の早期把握と計画的なフォロー体制の強化が必要である事を裏付ける。

学生生活支援では、令和6年度に設置した学生サポート部が機能し始め、両学科とも就職率はほぼ100%に近い結果を残した。キャリア支援や履歴書添削、面接指導などの支援が充実し、学生の進路選択を後押しした。また、カウンセラーが授業に参加する取り組みは学生との距離を縮め、早期の問題把握と対応につながった。一方で、担任・教務・サポート部の役割分担が明確でない部分があり、改善が必要である。

組織運営では、教務と学生サポート部が定期的に連携会議を行い、学校全体の状況把握と課題共有が進んだ。問題を早期に解決できる体制が整いつつあり、今後も継続していくことが重要である。また、防災訓練や危機管理体制の強化、学生意見箱の活用など、学校全体の安全性と学習環境の改善にも取り組んだ。

令和6年度に発足したアドバイザーボード委員会は、外部の視点から学校運営の改善に寄与しており、令和7年度も適切な意見を活用し、本校の強みを発信し、地域連携をさらに進めていく計画である。

総じて令和7年度は、教育の質向上と組織運営の安定化が進む一方、入学者確保や国家試験対策、学生支援の複雑化等を踏まえて、学校の持続的発展に向けて取り組むべき課題が明確になった一年であった。今後も教職員が一丸となり、特色ある学校づくりと地域に貢献する医療人材の育成を推進していく。また、臨床検査学科では、令和8年2月に実施された埼玉県医療人材課の指導調査において指摘事項はなく、適切な運営が行われていることが確認された。

## I 学校経営

評価項目																
1. 学校の理念や目的がわかりやすく教職員や学生、保護者に周知されているか																
2. 学校のビジョンおよびそれを実現するための目標と事業計画を策定しており、かつ、その目標が教職員に理解され、教職員の提案を活かしているか。																
3. 目標に対する評価を実施し、その結果を教職員に周知するとともに、次年度の目標につなげているか。																
4. 組織運営や意思決定システムは明確で効率的であるか。																
5. 組織間、各部署間の連携は適切に図られているか。																
6. 運営会議の決定事項や各種委員会の決定事項は教職員に周知され、議事録は適切に作成・管理されているか。																
7. 学校評価を組織的に実施し、評価結果を教職員に周知するとともに、改善計画を策定しているか。																
8. 特色ある学校作りをすすめるために、教育内容の充実に努めるなど、学校独自のカラーをだしているか。																
9. 学校関係者評価の内容及び結果を学校関係者以外にも、公表しているか。																
10. 教職員の確保と質を担保するために、労働環境の整備を行っているか。																
平均	看護学科				臨床検査学科				事務				全体			
	R6	4.5	R7	4.45	R6	4.0	R7	4.19	R6	4.1	R7	4.2	R6	4.2	R7	4.28
取り組みと課題																
<b>【組織目標に関すること】</b>																
<b>学校全体</b>																
<ul style="list-style-type: none"> <li>今年度は年度目標を基軸に、学校全体の組織運営強化に取り組んだ。学生支援の充実による退学・休学者の減少、広報活動の拡充、地域連携の強化を進め、令和9年4月の保健師学科開設に向けた準備も本格化させた。運営指標（国家試験合格率、学生確保数、卒業数、退学者数、就職率）の達成に向け、各学科で計画を策定し、補講体制や学習支援の強化、学生状況の早期把握など学科横断的な取り組みを推進した。また、ICT活用による教育の質向上と教員負担軽減を図り、医療専門職業人の育成し、埼玉県内の就職率を90%を達成した。</li> <li>地域に支持される学校づくりとして、学校訪問・オープンキャンパス・説明会を積極的に実施し、医療機関や高等学校との連携を強化した。学校祭や地域イベントへの参加を継続し、地域住民との交流を通じて認知度向上と地域貢献を進めた。</li> <li>教育理念・ビジョンはホームページで公開し、教職員には年度末に実績と評価を踏まえた次年度目標を提示した。部門目標の設定と中間評価によりPDCAが機能している。職員の目標管理と年2回の面談を通じて到達度確認と人事評価への反映を行い、能力開発と組織の質向上につなげた。議事録は共有ファイルで全職員が閲覧でき、決定過程を含めた記録により透明性を高めている。</li> </ul>																

- ・保護者、学生には説明会や授業で理念を伝えているが、日常の学習態度から浸透に課題が見られ、改善の余地がある。臨床検査学科では年1回の保護者会を実施し、看護学科はコロナ禍で中止していたが今年度より再開予定である。
- ・法人理事会では目標・成果・評価を共有し助言を受けることで、学園全体の方向性が統一され、組織横断的な協働体制が強化されている。これにより実効性の高い取り組みが可能となっている。

### 【学校関係者評価に関すること】

- ・自己評価を基に学校関係者評価を実施し、評価結果を6月末までに学校のホームページで公開し、広く閲覧できるようにしている。また、学校関係者評価委員会からの指摘事項を検証し、改善に努めている。

### 【組織運用に関すること】

#### 学校全体

- ・両科が連携し、地域とのつながりを深める取り組みを継続しており、学校の特色や個性を生かした活動として、学園祭や地域の祭りへのボランティア参加を実施している。
- ・毎日朝礼を行い、情報共有すると共に教職員間の意思疎通を図っている。
- ・子育て中の教職員が無理なく働ける制度やサポートは一段進んでは来たが、今後、持続的な工夫も必要である。教職員からの意見を吸い上げるための組織的な仕組みは徐々に整備されているが、誰もが気兼ねなく意見を出し合える雰囲気づくりには、心理的安全性を確保した職場環境の整備が欠かせない。そのため、日々のコミュニケーションを重視し、各種カンファレンスの導入など工夫を行っている。
- ・項目別に見ると、「特色ある学校づくりを進めるために、教育内容の充実に努めるなど、学校独自のカラーを出しているか」という質問に対する評価は平均値を上回る。  
これは両科合同で研究発表会を開催し、学科間の連携授業を行うことで、学修成果が確認できるように進み始めている事は各教員の努力が伺え、両科の特色を理解し二科有する強みとなっている。
- ・「組織間や各部署間の連携が適切に図られているか」という質問に対する評価は、学校経営に関する項目の中で最も低く、「組織運営や意思決定システムが明確で効率的であるか」という質問に対する評価も、全体の平均値を下回った。この点については、体制の整備が進みつつあるものの、職員が関与しない部分もあり、評価が低い状況があるが、今後職員が理解しやすい運用システムの構築が求められる。
- ・人材の確保についてはホームページ、ハローワーク、人材派遣会社を通じて教員募集を継続している。社会情勢を鑑み、処遇条件については今後検討が必要である。時間外勤務に関しては月平均数時間内の労働環境はおおむね良好な実態で維持しているが、一部の職員に一時的に負担が掛かるこ

とがあり、改善が必要である。今年度は男性職員1名を含む5名が育休・産休を取得し、既に復職済および復職予定である。

## II 教育課程・教育活動

評価項目															
1. 教育課程は、教育理念・教育目標と一貫性のある内容になっているか。															
2. 卒業時において看護師・臨床検査技師としてもつべき資質を、明示するとともに、卒業時の到達状況を分析しているか。															
3. 定期的に教育課程の評価を組織的に行い、時代の要請・変化に合ったものに修正しているか。															
4. シラバスは、学生が授業内容を理解しやすく、授業内容と一致しているか。															
5. 学生に単位認定のための評価規準と方法を公表しており、かつ、評価が公平性・妥当性が保たれているか。															
6. 授業の一貫性を確保するため、1科目の担当者数を可能な限り少なくするとともに、担当者間の連携がとれているか。															
7. 効果的な授業運営を図るため、適切に時間割を調整しているか。															
8. 未履修科目の原因分析を教員、学生両者が実施し、対策を講じているか。															
9. 学生による授業（講義・実習）評価を実施し、授業（講義・実習）の改善に努めているか。															
10. 実習の目標に沿った施設の選択および学習環境・指導体制が整っているか。															
11. 実習における患者への倫理的配慮に関するガイドラインを作成し、患者等の同意を得た上で実施しているか。															
12. 実習指導者と教員の役割を明確にするとともに、実習指導者と教員の協働体制を整えているか。															
13. 学生指導において、人権への配慮がされているか。															
平均	看護学科				臨床検査学科				全体						
	R6	4.0	R7	4.53	R6	4.1	R7	4.42					R6	4.1	R7
取り組みと課題															
<p><b>【教育課程編成に関すること】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>Webポータルを導入し、出席管理を含む成績管理を一元化したことで、教育課程運営に係る教務業務の効率化が図られ、教職員の負担軽減につながった。また、二学科を有する学校として、両学科合同で「チーム医療の実践について」を初めて実施し、学生が専門職種間連携の重要性を理解する機会を提供するなど、教育課程の充実が図られた。</li> </ul>															

## 看護学科

- ・令和6年度は、複数教員による授業で内容の統一や連携が課題であった。令和7年度は定期的な打ち合わせや情報共有を継続したことで、授業の統一感や教員間連携の向上につながった。「担当者間の連携」の項目は昨年度より0.5ポイント上昇し、特に評価が向上した。教員間での事前調整が定着したことが要因と考えられる。
- ・一方で、未履修科目への対応は課題であり、早期支援や保護者との連携強化に取り組む。

## 臨床検査学科

- ・入学前登校および新入生オリエンテーションのプログラムを見直し、内容の充実を図った。また、時間割を学生用と教員用の二種類に分けて作成し、学生用には行事準備の時間を明記、教員用には年間の教務会議日程を年度当初に設定して反映させた。これにより、見通しを持った計画的な準備や会議での議題設定が可能となり、計画的な教育活動への意識付けにつながった。その結果、昨年度より評価が向上したと考えられる。
- ・総時間数を3,600時間から3,010時間に削減し、学生の自主性および自己研鑽力を育成することを目的とする単位制新カリキュラムにより、初の卒業生を輩出した。これに伴い、総括的評価としてカリキュラム評価を実施した。放課後に教室に残って自主的に学習に取り組む学生の姿が見られるなど、改定の狙いであった主体的な学びを促す行動が実際に引き出されたことが確認された。カリキュラム改定の目的が反映された成果であったと評価できる。

### 【実習に関すること】

## 看護学科

- ・令和6年度は、クラウド型実習支援システム導入に伴う運用や通信環境整備が課題であった。令和7年度は運用が安定し、ICT活用による実習記録作成の負担軽減や学習環境改善につながった。
- ・「実習環境・指導体制」は昨年度より0.5ポイント上昇し、特に評価が向上した。教員による状況把握や支援が行いやすくなったことが要因と考えられる。
- ・引き続き、生成AI活用が進む中で、自ら考える力の育成強化が課題である。

## 臨床検査学科

- ・指定校規則の変更後に導入した新カリキュラムに基づき臨地実習を実施した。生理学的検査における患者への直接的な実習行為については、病院側において実習生に適した患者を選定のうえ、実施の許可を得るなどのご配慮をいただいた結果、大きな問題を生じることなく、実習を終えることができた。

- ・学生の状況把握や連絡・相談の手段として、2023年度（令和5年度）からMS365の共有ファイルを用いた日々の実習記録作成を継続しており、担当教員が状況を確認してフォローできた。  
この共有システムにより、従来は月1回の登校時に限られていた学生の様子把握が日々可能となり、学生の負担感や不安の兆候に教員が早期に気づき、適切な対応策を講じることにつながった。また、学生が自身の限界や不安について声をあげる場となっていることは、大きな成果であると考えられる。

## 【授業に関すること】

### 両学科

- ・新カリキュラムの授業では、「チーム医療の実際」として両学科の3年生を合同にし、グループワークを中心としたディスカッション形式の症例検討を実施した。本校が掲げるチーム医療の特色に合致した教育が行えた。

### 看護学科

- ・令和6年度は、履修状況把握や早期対応体制が課題であった。令和7年度はwebポータル活用により、出席状況や履修状況の可視化が進み、早期対応につながった。
- ・「授業評価を実施し、授業改善に努めているか」の項目は昨年度より0.6ポイント低下し、最も評価が下がった項目となった。授業評価の回答率低下や、授業改善への反映が学生へ十分伝わっていないことが要因と考えられる。

### 臨床検査学科

- ・Webポータルの導入により、学生の出席および成績管理の効率化が図られ、教員の業務負担の軽減につながった。また、学生は自身で出欠状況や評価を確認できるようになり、自己管理に対する意識の向上が期待できる。さらに、保護者も本システムにより学生の出席や成績状況を把握できるようになったことで、学校と保護者との情報共有が一層円滑となり、今後の連携強化につながるが見込まれる。
- ・前期末（9月）に開催した講師会では、新たに学年別の分科会を設けたことにより、外部講師との情報共有の充実を図った。本分科会では、講師から各授業における工夫や課題について具体的な意見が示され、実践的な情報交換の機会となった。講師会に先立ち7月に実施した保護者会（学年説明会）においては、年間予定や学校の取り組みに関する情報共有を行い、「学校の方針が理解できた。学生の様子を知ることができた。」との評価を得ることができた。これらの取り組みにより、教員全体の学生理解や成績に対する意識が高まり、昨年度より評価が向上したものと考えられる。

### Ⅲ. 入学・卒業対策

評価項目																
1. 学生募集のための広報資料の表現・内容ならびに広報活動の方法・時期は適切か。																
2. 学校案内・募集要項の内容は、志願者が必要とする情報が掲載されているか。																
3. 学校説明会・オープンキャンパスの時期・内容は適切か。																
4. 入学者選抜の時期・方針・方法は適切か。																
5. 志願者状況・定員充足率はどうか。																
6. 国家試験対策に個々の学生にあった指導・援助を実施するなど教職員一丸となって取り組んでいるか。																
7. 国家試験の合格率は、年度目標値に到達したか。																
8. 中途退学者を少なくする工夫・努力をしているか。																
9. 卒業生の県内就職率を高めるよう努めているか。																
平均	看護学科				臨床検査学科				事務				全体			
	R6	4.6	R7	4.33	R6	3.9	R7	4.12	R6	3.8	R7	3.8	R6	4.1	R7	4.08
取り組みと課題																
<b>【応募者確保に関すること】</b>																
<b>学校全体</b>																
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 広報担当職員を3名配置し、様々なツールを用いて積極的に広報活動を行った。またオープンキャンパス・学校説明会・入試説明会・夜間学校見学会・LINE相談会等も定期的に行ったが、令和8年度新入生は看護学科61名、検査学科43名となった。</li> <li>・ 令和8年度入試より実施した「大学入試共通テスト入試(両学科)」については一定の需要があった為、令和9年度も継続する。</li> <li>・ 地域医療人材育成支援を目的とし、令和9年度入試では以下の点を変更する。 <ul style="list-style-type: none"> <li>◇ 指定校対象校を155校⇒199校に増加する。</li> <li>◇ 指定校推薦入試I期受験生に対し、受験料を半額とし、小論文は事前提出とした。</li> </ul> </li> </ul>																
<b>看護学科</b>																
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 新入生61名となり、定員充足率は約76%であった。少子化や進路選択の多様化に加え、本校の特色が十分に伝わっていないことも要因と考えられる。また、通信制高校や商業高校からの入学者が増加傾向にあり、多様な学習背景を持つ学生への対応や、再履修科目を要する学生へのフォローも必要である。そのため、令和8年度に向け、再履修・再々履修試験制度導入に向けた細則作成や支援体制整備を進めた。</li> <li>・ 今後は教育内容や支援体制の強みをより分かりやすく外部へ発信するとともに、延べ高校訪問数を増やし、新規高校への訪問も強化していく。</li> </ul>																

## 臨床検査学科

- ・令和7年度入学生より定員を満たすことが出来ず80名⇒60名に定数変更に至った。
- ・新入生の確保は目標に対して達成率は95.5%、定員に対する充足率は71.6%にとどまる。募集に対する危機感は強く、これからの未来構想を含め、改善案を出し合い、教職員が一丸となって取り組んでいる。

### 【質の高い卒業生の輩出に関すること】

## 看護学科

- ・前年度は、国家試験対策における個別支援が課題であったため、より個別面談や学習支援を継続し、教職員間で情報共有しながら支援を行った。「国家試験対策への取り組み」は昨年度より評価が向上した。一方で、合格率100%には届かず、学習習慣の定着が難しい学生に対し、継続した支援を行っていく。

## 臨床検査学科

- ・単位制の新カリキュラム導入に伴い、従来の卒業試験が廃止されたため、3年生が学力指標やモチベーションを見失う懸念が生じた。これを受け、時間割に模擬試験の解説時間を設け、模試得点への意識付けを強化した。さらに、性格検査GETとSPIを基にした学習危険度の指標であるRTGS指数を活用した個別化指導を推進し、成績下位者へのマンツーマン指導も継続した。
- ・12月からは土曜・日曜の登校学習日を設け、学習環境の整備と学習時間の確保に努めた。教員が常駐することで質問しやすい体制を整え、直前期の不安軽減と理解度向上を図った。これらの対策により、国家試験の合格率は組織目標値には達しなかったものの、91.2%を達成した。
- ・マンツーマンによる個別指導によって成績が大きく向上した学生も認められた一方、期待した成果に至らなかったケースもあり、指導方法や教員との相性といった点は今後の課題である。

### 【卒業生への支援に関すること】

## 学校全体

- ・卒業生に対しても面接指導や就職支援、国試対策をおこなっており、OCや講師等の依頼をしている。同窓会の支援システムの構築は継続課題である。

## 看護学科

- ・卒業生に対して国家試験対策や就職相談などの支援を継続して行った。

- ・国家試験不合格者に対しては、個別相談や学習支援など継続したフォローを行っているものの、学習状況や生活環境の変化もあり、継続的な支援が難しいケースも見られた。(前年度不合格者4名中1名合格)
- ・今後も卒業生が相談しやすい環境整備や、継続した支援体制づくりを進めていく。

#### 臨床検査学科

- ・国家試験に再挑戦する卒業生を「科目受講生」として受け入れた。昨年度の卒業生の再挑戦者の合格率は100%であった。過年度卒業生の再挑戦者(当日欠席者を除く)全体の合格率は50%となり、既卒者の全国平均合格率29.1%を上回った。

### IV. 学生生活への支援

評価項目																
1. 学生の心身面での健康管理体制が整っているか。																
2. 学習継続・学習困難の支援体制ができているか。																
3. 学生生活・進学・就職に関して学生の相談に十分に応じているか。																
4. 卒業生に対する相談に応じ、十分に対応しているか。																
5. 学生のクラブ活動やボランティア活動などの自主活動を支援しているか。																
6. 保護者と適切に連携しているか。																
平均	看護学科				臨床検査学科				事務				全体			
	R6	4.5	R7	4.23	R6	4.1	R7	4.25	R6	3.9	R7	4.00	R6	4.2	R7	4.16
取り組みと課題																
<b>【学生相談に関すること】</b>																
<b>学校全体</b>																
<ul style="list-style-type: none"> <li>・令和6年度に学生サポート部を設置し、月1回の定例会議を通じて支援内容の検証と改善を進めてきた。専門資格を有する職員による相談対応に加え、PC相談、図書サービス、英会話支援、国際交流活動、TOEIC対策など、多面的な学習支援体制を整備した。キャリア支援では求人情報提供、就職説明会、履歴書添削・面接指導を実施し、高い就職率を維持している。メンタルケアでは新入生面談や定期カウンセリングを行い、相談ニーズの増加に対応した体制拡充を計画している。経済的支援として奨学金・給付金制度、特待制度、入学前相談会を実施し、学業継続を支援している。さらに、行事・ボランティア活動への参加促進策としてポイント制を導入し、学生の主体的参加を促す仕組みを構築した。</li> <li>・一方で、支援への参加者が限定される傾向があり、周知方法や参加動機付けの強化が課題である。また、学習・生活・進路に関する相談対応では、担任教員・キャリア担当・学生サポート部の連携が十分とは言えず、業務が一部職員に集中している。多様な背景やメンタル面の課題を抱える学生が増加しており、個別状況に応じた継続的支援体制の再考が求められる中での微妙な評価数値低下</li> </ul>																

を認めた。また、基礎学力支援として、入学前登校日に基礎学力確認試験を行った。その後 Zoom による解説や入学前課題を実施し、入学予定者に対して基礎学力の重要性を理解してもらい、入学後の意欲喚起につなげた。

今後は、教職員間の協働体制を強化し、支援体制を確立するとともに、国際交流や語学支援の充実、個別支援の推進を通じて、学生支援の質向上を図る事が継続した課題である。

### 【学生の活動に関すること】

#### 看護学科

- ・ 学生生活への支援については、学生サポート部やスクールカウンセラーを中心に支援体制整備を進めているものの、全体的な評価は昨年度よりやや低下した。多様な支援を必要とする学生の増加に伴い、学習支援・メンタル支援・保護者対応など、教職員に求められる支援内容が多様化していることが要因と考えられる。
- ・ 一方で、保護者との連携や、支援を必要とする学生への継続的な関わりについては課題も見られることから、令和8年度に向け保護者会実施など連携強化に向けた体制整備を進めている。
- ・ 講堂を活用した交流活動や学生会活動を通し、学年・学科を越えた学生同士のつながりづくりが進んでいる。

#### 臨床検査学科

- ・ 就職対策として、夏までに最低1回の就職説明会参加を全員に指導した。内定者は昨年度を上回るペースで推移し、最終的な就職率は100%を達成した。これらの取り組みにより、昨年度より評価が上がったものとする。

### 【国際交流支援】

#### 学校全体

オンライン交流や海外研修、留学生との文化交流活動などを通じて、台湾・フィリピン・韓国をはじめとした海外の学生や教育機関との多様な交流機会を積極的に設けた。また、本校では毎年台湾での海外研修を実施しており、現地の医療機関・教育機関との交流を継続的に行っている。

学習カリキュラムでは韓国語、中国語、医療人に必要な英語を学習し、これらの取り組みにより、学生は異文化への理解を深めるとともに、国際的な視野を持って主体的に学ぶ姿勢が育成され、国際理解力とコミュニケーション力が着実に身に付く環境を提供している。また当法人の国際活動として、校長及び教員がミャンマーを訪問し報告会を実施した。

### 【その他】

#### 学校全体

- ・ 卒業後の相談にも対応しているが、継続的なつながりを保つ体制としてはまだ発展途上であり、今後は連絡手段や情報共有の方法に一層の工夫が求められる。

- ・インフルエンザ等の感染症に罹患した場合、全学生、教職員が加入している保険会社に保険請求が可能であることを周知し、適切な支援をうけられるよう配慮している。

## V. 管理運営・財政

評価項目																
1. 予算計画、年間事業計画を策定し、適正な予算の執行・進行管理を行っているか。																
2. 学生や教職員の人権・個人情報の保護について十分な対策がなされているか。また、学生や教職員に対しそれらの徹底を図っているか。																
3. 災害など非常時の危機管理体制が整っているか。																
4. 学校運営などに学生の意見が反映されているか。																
平均	看護学科				臨床検査学科				事務				全体			
	R6	4.5	R7	4.5	R6	4.0	R7	4.23	R6	3.9	R6	4.2	R6	4.1	R7	4.31
取り組みと課題																
<b>【財政に関すること】</b>																
<b>学校全体</b>																
<ul style="list-style-type: none"> <li>・教職員に予算の周知を行い、HP上で財務状況の公表も行っている。財政に関しての教職員の意識は高まってきている。経費削減については、両学科共通の消耗品の一元管理や電気代節約など意識して行動しているが、人件費増加分をカバーできていない現状にある。</li> </ul>																
<b>【人権に関すること】</b>																
<b>学校全体</b>																
<ul style="list-style-type: none"> <li>・人権については、学生向けのハラスメントガイドラインや「障害のある学生支援に関するガイドライン」をホームページ上で公開しているが、学生への周知が不足していることが課題である。</li> </ul>																
<b>【危機管理に関すること】</b>																
<b>学校全体</b>																
<ul style="list-style-type: none"> <li>・防災訓練を通年実施し、防災用品の備蓄に加え、県主催の防災訓練の実施や安否確認システム・保護者への連絡ツールの導入、マニュアル改訂などを行った。また、4月に防災教育を実施するとともに令和7年度新生より「帰宅支援セット」を導入し、防災体制の強化を図った。さらに、学生意見箱の活用により学習環境の改善に努め、学生の声を反映した教育環境づくりを推進している。</li> </ul>																

## VI. 施設設備

評価項目																
1. 施設設備の安心・安全が確保されているとともに障害者の利用に配慮された構造であるか。																
2. 教育目標達成に必要な施設、設備及び教材が整っているか。																
3. 学生のための福利厚生施設・設備は整っているか。																
4. 図書室は適切に整備されているか。																
5. 実習室は学生数に応じたスペースが確保され、必要な備品設備が整っているか。																
平均	看護学科				臨床検査学科				事務				全体			
	R6	4.6	R7	4.3	R6	4.2	R7	4.38	R6	4.3	R7	4.2	R6	4.4	R7	4.29
取り組みと課題																
<p><b>【施設設備の安心・安全】</b></p> <p>施設・設備は法的基準を満たして適切に整備されており、エレベーターの更新工事や安全対策（滑り止め工事、塀改修、センサーライト・AED 設置など）を計画的に実施している。バリアフリー・オストメイト対応設備や快適な環境整備も進められており、安全性・利便性の向上が図られている。さらに、教育に必要な設備や備品も充実している。</p> <p><b>【教育目標達成のために必要な施設・設備】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>必要な設備、教材、備品等が整っている点について教員からの評価は高い。本校のPRポイントとして強調していきたい。</li> </ul> <p><b>【学生の為の福利厚生施設・設備】</b></p> <p><b>【図書室の整備】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>学生が活用しやすいよう司書が環境を整えている。また、学生からの要望があれば近隣の図書館と相互貸借を行い国家試験対策や、研究発表等に役立てている。</li> <li>また、令和6年度は初めて桜図書館との「交換展示」を実施した。</li> <li>学生教職員からの要望を基に、後援会より図書187点寄付いただいた。</li> <li>臨床検査学科の一部授業を図書室と同じ棟で行い、昨年度まで利用の少なかった臨床検査学科学生の利用が増えた。</li> </ul> <p><b>【実習室の整備】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>実習室は学生数に対して十分な広さと必要な備品を備えており、実践的な学習の場として活用されている。</li> <li>設備や教材については現状では適切に整っているものの、医療や教育の技術進歩に伴って、今後は定期的な更新や見直しを計画的に進めていくことが必要である。学生のニーズや時代の変化に応じて、より快適で実用性の高い学習環境と、安心して過ごせる学校生活を両立できるよう、今後も柔軟に施設整備を進めていくことが期待される。</li> </ul>																

## VII. 教職員の育成

評価項目														
1. 学校の抱えている課題を踏まえて職場内研修を行っているか。														
2. 学会または研修等に参加した成果を他の教職員に還元する仕組みはあるか。														
3. 教員が計画的に研修に参加しているか。														
4. 教員が研究活動を行えるような体制が整っており、教員は計画的に研究活動を行っているか。														
5. 教員の授業を他の教員が参観し、授業の質を高めるための意見交換をおこなっているか。														
平均	看護学科				臨床検査学科				事務			全体		
	R6	4.2	R7	4.0	R6	3.4	R7	3.36		R7	3.6	R6	3.8	R7
取り組みと課題														
<b>看護学科</b>														
<ul style="list-style-type: none"> <li>・教員全員が3回以上研修に参加し、Z世代への理解、実習指導、国家試験分析会など教育実践に関する学びを深めた。</li> <li>・東京都看護教員養成研修へ1名が約1年間参加し、研修内容共有を通して教員自身が教育実践を振り返る機会となった。今後も継続的に看護教員養成研修への参加を進めていく。</li> <li>・「チーム医療の実際」の合同授業では、両学科教員が学生とともに聴講し、学科を越えた学びや相互理解につながった。また、教員同士の授業見学や意見交換の機会も増えている。</li> <li>・一方で、授業改善への取り組みには教員間で差が見られ、日々の工夫や気づきが個人に留まりやすい点は課題である。</li> <li>・昨年度より評価が0.2ポイント低下したことは、教職員間で課題意識が高まり、より客観的に評価する視点が育ってきた結果とも考えられる。一方で、授業改善の取り組みを教員間で共有する体制づくりは今後の課題である。</li> </ul>														
<b>臨床検査学科</b>														
<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本臨床検査学教育協議会主催の全国大会には2名が参加し、日本臨床衛生検査技師会主催の医学検査学会には1名が参加した。報告書は教員会議の議事資料として配付、概要を会議で報告して成果を共有できた。また、埼玉検査技師会主催の埼玉県医学検査学会には全学年の学生とともに全教員が参加し、うち1名が教育への取り組みとその成果について口頭発表を行った。</li> <li>・学会参加を継続的に行っているものの、教員研修に関する評価が相対的に低い状況が続いている点が懸案である。研修情報の提供や参加調整など、個々の教員を組織として支援する仕組みの整備が必要であると判断した。自主研修にせず職務として参加教員を指名して、職業教育・キャリア教育財団が実施する教員研修会への参加を計画している。</li> </ul>														

## 事務

- 入試広報担当者研修、私学共済担当者研修、年末調整セミナー、会計セミナー、IT関係展示会に延べ6名が参加した。また今後も積極的に研修に参加し、見聞を広めたい。

## VIII. 広報・地域活動

### 評価項目

- オープンキャンパス・学校説明会で学校の魅力や特色を伝えられているか。
- 広報活動に関する評価を年度内に行い、その結果を教職員に周知するとともに、次年度の広報活動につなげている。
- 地域社会の一員として、地域への広報・貢献・奉仕活動・連携の工夫を行っているか。

平均	看護学科				臨床検査学科				事務				全体			
	R6	4.7	R7	4.6	R6	4.0	R7	4.2	R6	4.2	R7	4.00	R6	4.2	R7	4.27

### 取り組みと課題

#### 学校全体

- 校外ボランティア活動については、年間計画を策定するなど、今後も継続して取り組んでいきたい。令和7年度は、地域連携、広報活動、進路支援、体験学習の各分野において多くの成果が見られた一年であった。地域との関わりでは、夏のボランティア体験や市民公開講座、中学校の職業体験受入れ、小学校の地元探訪など、多様な取り組みを通じて学校の認知度向上と社会貢献が進み感謝状等も授与された。また、当法人である浦和学院高校をはじめとする高校との連携も強化され、体験学習や講義派遣を通じて医療職への期待や理解促進に寄与した。
- 広報活動においては、オープンキャンパスでの多彩なプログラム提供、公式ホームページの定期更新、SNSの活用、学内誌「IMC JOURNAL」の発行など、情報発信の幅が広がり、学校の魅力を効果的に伝える体制が、教職員参加型で整いつつある。さらに、中高生向けの体験授業や見学受入れを継続的に実施し、医療人材育成に向け、さいたま市社会福祉協議会企画の啓発活動も充実した。
- 一方で、これらの取り組みを継続的な成果につなげるためには、地域連携の効果測定や関係構築の仕組みづくり、広報活動の分析と改善、体験プログラムの体系化など、運営面での課題が明確になった。また、ボランティア活動については年間計画を策定したものの、学生・教職員の参加促進や活動内容の拡充が今後の検討課題である。
- これらの成果と課題を踏まえ、今後も学校全体として地域・高校・行政との連携を深めるとともに、広報力の強化と教育プログラムの充実を図り、持続的な学校運営と医療人材育成の推進につなげ、当校の認知拡大を目指している。

## 両学科

・両学科合同による学生会を結成し、学生会主導で学園祭を実施することができた。学生が主体となって企画・運営を行ったことで、両学科の学生間での交流が深まり、学内での協働意識や主体性が育まれた。また、学園祭で市民公開講座を実施できたことは、地域連携や社会貢献活動として有意義であった。今後も両学科合同の取り組みを継続・発展させることで、学生の主体性をさらに高めるとともに、学校全体の教育成果の向上と地域貢献の強化につなげていきたい。

